

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念「心」を認識しながら目標を立て、省みる機会を持ちながら実践に努めている。	『心』という理念を掲げ、毎日のミーティングや月例検討会で確認しているほか、職員はその日の目標を理念から考え、実践に努めています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当癒しの家が、一つの家庭である様に、地域の相談事や行事、役割に参加する事を継続している。	清里地区の敬老会や斉の神といった地区の行事に積極的に参加するとともに、気候の良い時期は事業所の外で日常的にお茶会や食事を行うことで、地域の人々が立ち寄るなどの自然な交流が行われています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の可能性を引き出しながら、保育園等への手作り作品のお届け物や、ひとり暮らしの方への声掛け、お茶会のお誘い、近隣の方や畑の方が気軽に立ち寄れる機会を設けている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回ホームの事業並びに状況報告を行い、町内会長はじめ地域の住民参加による避難訓練やアドバイスを受けている。	2ヶ月に1回市議会議員や民生委員等に出席していただき、事業所からの報告に加え、事業所の課題に対して参加者と意見交換をすることに重点が置かれています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中学生ボランティアの受入や、研修の場としての交流を重ねると共に市主催の老人会や行事に参加し、入居者が地域に馴染んで暮らせるよう連携している	運営推進会議や日常的な報告や相談に加え、市が主催する敬老会等の行事への参加を通して、サービスの質の向上に向けた協力関係が構築されています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、利用者の行動を制限しないことを徹底しており、機会を求め職員の教育に努めている。また、玄関の施錠はせずセンサーによるチャイムで利用者の出入りを把握し安全確認を実施している。	厚労省の身体拘束に関するテキストを使用して研修会を行っており、開設以来、利用者の行動を制限しないことを徹底しています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	厚生労働省の手引きを活用し、職員教育を徹底し虐待防止に関する意識の向上を図るとともに、常に利用者の状態把握を実施して虐待が見過ごしにされることが無いよう努めている。	虐待に関する事例の読み合わせを社長と職員が一緒に行い、虐待防止に関する意識の向上を図るとともに、虐待が見過ごしにされることが無いよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等について管理者、職員を研修に参加させ、内容を全員に普及すると共に利用者の状態を勘案し活用出来る様支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類は予め自宅にお送りし、納得できる様読んで頂き再度ホームで説明し理解頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望等には出来るかぎり支援に努めるとともに、家族等には面会の機会、たよりの発刊時に意見要望等を求めるよう努めている、また、運営推進会議のメンバーに家族の代表に入って頂き要望等を運営に反映している。	ご家族の面会時には意見・要望等を求めるようにしているほか、年に1度法人のグループホーム合同で家族会を実施し、ご家族との交流を通じ、サービスの向上に努めています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の月例検討会を開催し、運営に関する職員の意見を聴く機会を設け、全員で検討し運営に反映させている。	日々の朝礼、月例検討会、モニタリング会議等、職員が意見や提案を言う機会が設けられているとともに、社長が頻繁に現場に顔を出し職員と直接コミュニケーションをとっています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等に職員を積極的に参加させ意識の向上に努めるとともに、実績等を勘案し資格の取得にも支援している、また、業務の改善案等には報奨金も実施して向上心の高揚を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修やヘルパー2級、介護支援専門員、介護福祉士等の受験への配慮、又は看護師やその他防災関係の学習会を計画的に実施している。町外等への研修も個人の希望により参加できる様、勤務等にも配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を主催し他の事業所にも声をかけ、広く勉強会を開きネットワーク作りに努めている。又、相互の訪問実習にも協力的に進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一度見学して頂き納得した上で剪定して頂き、本人の今までの生活や、不安な事、望んでいる事をお聞きし、言葉にない声にも添う様努める。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者自身の思いを尊重しつつ、家族の要望も充分お聞かせ頂ける様、家族の都合に合わせた、日時に相談や訪問をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査時に担当ケアマネージャーや相談員、看護師、介護士等広く意見を聞き自立支援の為の見極めをしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業や野菜、山菜等の下拵え、雑巾縫い等会話をし、昔の生活場面が思い出される様に努めている。又、苦労話にも耳を傾け労をねぎらっている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回発行しているホーム便り等によって日常の様子を定期的に伝えたり、月々の手紙や写真の送付によって一人ひとりの様子を伝える中で、家族支援にも努めている。	年に4回のホーム便りや毎月のお手紙の送付などでご家族へ情報提供を行なっています。また、ご家族が気持ちよく事業所に来られるよう配慮し、協力を得られるようにしています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が長年暮らしてきた集落の行事や町内の敬老会等に参加し、顔馴染みの人に出会う機会を設けている。ホームの近くに自宅のある利用者の集落で斉の神行事に参加させていただいている。	月に一度の外出ドライブで行きつけの商店によったり、お墓参りなどの支援を行っています。また行きつけの美容室から出張に来ていただいたりするなど、これまでの関係継続支援に努めています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲間意識を持つ事を大切にし、職員はふれあいの場を設ける事により居室にこもったり孤立する事のない様に努めている。また利用者同士がトラブルになりそうな場合は職員が中に入りトラブル防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も不安なく暮らせる様、詳細な情報交換を行い、住み替えによる本人のダメージを最小限に抑える様努めている、退居された後も電話等で近況を教えてもらっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの日頃の会話や表情、行動を通じて今の姿を知り、家族やその他面会者の方からお話を伺いながら、利用者様の希望や意向を把握している。家族の無い利用者の希望により墓参り等の支援をし希望に添うように努めている。	ご利用者・ご家族・関係者から聞き取った内容に加え、日常のケアの中から得た情報が職員間で共有されており、ご利用者の要望に応じたケアを実践できるように努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ日々の会話や家族の方々との会話にて、今まで過ごしてこられた生活を把握し、利用者の希望や意向の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートが活用され、事前面談や日々の生活で得た情報をケアプランに反映する取り組みが行われています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のラジオ体操時に心身状態をチェックし、掃除やレクリエーション時では持てる力の発見に努める。職員のミーティング時には各人について詳細な話し合いを行いながら利用者一人ひとりを把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、主治医から本人の状態を深く知り、その人に添ったプランを介護者全員で検討し、穏やかな日々を送れる様作成し、1ヶ月毎にモニタリングの見直しを計っている。	月に1度のモニタリング会議、6ヶ月に1度の定期的なケアプランの見直しとともに、ご利用者の状態変化による随時の見直しが行われています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プラン、介護記録、看護記録、経過票などは個人ファイルになっており、日々の様子を記録している。職員交替時には申し送りをし、情報を共有しながら介護計画の見直しに活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性を大切にし、本人や家族の状況により、要望を取り込む事に努めている。帰宅願望の強い利用者には家族の協力を得て、自宅で過ごす時の送迎を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らし続ける為には地域の民政委員やボランティア、警察、消防、自治会、隣組、学校、保育園、区、地域の住民等と連携を持ち、協力して頂きながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に添って、かかりつけ医を決め医療と連携を取りながら健康管理が出来る様に支援している。	ご本人・ご家族が希望する医療機関での受診が行われており、かかりつけ医にもご利用者の情報をまとめた医療情報提供用紙を送付し、協力関係を築いています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常勤の看護師と利用者の情報や気づきを相談すると共に、すぐ連絡の取れる体制を執り、日頃の健康管理、医師との連絡、服薬等の医療活動を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中も2ヶ月間は、退院を待つ契約をしているが、看護師と共に訪問し、出来るだけ早期退院が出来る様、医師との連絡を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に出来る事と出来ない事を充分説明させて頂いた上で、本人や家族が希望された場合、医師、看護師、介護士が支援体制を組み、重度化や終末期に向けた取り組みを行っている。本年6月に看取りをした利用者も家族と話し合いホームで看取りをし、御家族意向に添った支援をしている。	昨年度の課題を受け、看取りに対しても積極的な対応が感じられました。ご家族の意向に添った支援を行なう方針のもと、ご家族への説明も行われ、医師との協力体制も築かれています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場の見やすい場所に緊急対処マニュアルを掲示し全職員に周知する事や、防災訓練時に救急法の反復教育を実施すると共に、日頃より地域の人々の協力を得られる様、働きかけている。	定期的な救命救急講習の受講と参加できなかった職員への伝達研修など職員への周知徹底が図られています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し昼夜の対応等も考慮し、これに基づき職員と入居者が防災管理者の計画した月2回の訓練を実施している。又、地域の防災活動への参加も積極的に行っている。	災害マニュアルに基づき、利用者も交えて定期的な訓練が実施されています。また、地域防災活動に参加し、災害時の地域との連携体制も構築されています。	避難訓練は実施されていますが、夜間を想定した対応はされておりません。今後計画し、実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳やプライバシーの保持の大切さを全職員が認識を持って言葉かけや接する事が出来る様に努めている。	個人情報の取扱いや羞恥心に配慮した対応などの職員に対する周知徹底が図られています。また、契約時に個人情報の取り扱いに関してご家族に説明し承諾が得られています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけの表出にとらわれず、表情や仕草からも、ご自身の希望又は求めている事を知る様に努め、意とする事への決定に導く様にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり要望する事が出来る様にその人の表情や仕草、職員の声掛けにより伺いながら希望に添う様支援している。利用者が孤独にならないよう、注意しながら、ゆっくり過ごしていただけるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師からホームに来て頂いたりパーマに出掛けたりするほか、おしゃれを楽しんでもらっている。洋服等購入希望の利用者には、職員と共に買い物をしていただけるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に食事を楽しく食べ、各人の好みなどをお聞きして提供している、又食材の皮むきやお盆拭き、テーブル拭きなど積極的にお手伝いをして頂いている。	自然の食材に徹底的にこだわり、畑から収穫した野菜や裏山から収穫した山菜などの旬の食材や厳選した米や調味料が取り入れられています。また、法人合同で食事に関する定期的な研修を行い、食事内容の充実を図っています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は生きる源であり、食材も減農薬、自家野菜を多いに使用し、バランスの良い献立を考え摂取カロリー、水分など一人ひとりの状態を把握して摂るよう心掛けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの歯磨きの介助や見守りを行っている。又、1日2～3回イソジンでうがいをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄表の記入により職員全員が分かる様にし、時間帯を把握して適時な誘導をさりげなく支援している。又、失禁者には適温の蒸し清拭布を用い、清潔を常に心掛けている。	排泄チェックや様子などをもとに排泄パターン把握し、職員間で共有することで、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援されています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や体に及ぼす重大な影響について理解しており、飲食物、特に水分と野菜に重点を置き、十分な摂取出来る様支援するとともに、散歩、運動を日課に取り入れ改善が困難な場合は看護師に相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は職員と一対一のコミュニケーション作りなど楽しめる様支援をし、くつろげる時間帯を選ぶようにして、湯温、湯船に入っている時間を考慮し、又湯花の使用をして楽しめる様支援している。	ご利用者がくつろぎ楽しんで入浴できるよう時間帯への配慮や、時期に合わせ、よもぎやゆずなどを湯船に入れるなどの対応をしています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活や生活習慣、現在の状況等を考慮し、利用者が安心して快い暮らしが出来る様、職員の対応を含めた環境作りに努めている。夜間眠れないと起きてくる利用者にも、職員が話し相手になり、また安心して眠れる様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指導により看護職員と協働し、個々の服薬ケースを作り飲み忘れしない様にしている。又、個人ファイルに薬カードを閉じ、効能、副作用等把握している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る機能を考慮し積極的に参加できる様支援している。食器洗いやテーブル、お盆拭き、洗濯物たたみなど役割を持って頂き、生き甲斐が持てる様支援すると共に、各利用者の楽しみ等を知りそれらの機会を取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者各人散歩が好きなので天気の良い日は散歩に出掛けている。又、往診の無い眼科等の通院や衣類、嗜好品等の買物を共に出掛ける支援をしている。御家族のいない利用者には、希望により親戚の協力を得て墓参りの支援をしている。	日常的な散歩やスーパーへの買い物ほか、毎月の外出ドライブでご利用者の要望に応じた外出支援も行なっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る入居者にはお金を持っていていただき、個人的に食べたい物や衣類、化粧品など買っていていただく。管理の出来ない方には言葉をかけ心にそえるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの電話や手紙の希望に対しては速やかに対応している。また自分で手紙を書くことが困難な利用者に対しては代筆などの支援をしている。利用者のプライバシーに配慮し、各自の居室や事務所等での対応とし、ご家族等への連絡取りを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り穏やかな自然光を取り入れる一方、体感に心地良い適温の調整を図っている。又、季節感のある折り紙は切り絵の装飾や草花を活け、生活に季節感を盛り込んでいる。	事業所内のところどころに昔ながらの家具や道具を置き、ご利用者が落ち着ける雰囲気を出すことや、季節に応じた模様替えを行い季節感を出すようにされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、玄関先、廊下などにソファやベンチを置き、冬場はコタツなども置いて、利用者一人ひとりが好きなきに、友達と語り合い自由に過ごすことができる居場所作りを職員は心がけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたテーブルや椅子等、希望を取り入れた家具を配置し、又、思い出の品や写真等を置き、家庭に近い安心した環境作りに努めている。	慣れしでいる物の持込みの奨励や思い出の写真の掲示など、居心地よく、これまでの生活の延長で暮らせるよう配慮がされています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に利用者の名前を大きく書いて自分の居室を認識していただいたり、足は弱いが自分でトイレに行こうとされる利用者には、センサーを付け介助し、自立の支援に努めている。認識し易い表示や色、形の工夫は勿論、音や声かけ等、五感への働きかけで個々の状態に合った支援をしている。又、滑りやすい傾斜やお風呂等に手摺を設置し安全の確保に努めている。		



サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		